

「海外からの留学生による自国紹介や交流」

独立行政法人 日本学生支援機構

実践校：大田区立相生小学校

実践日時：平成 29 年 3 月 9 日

対象学年：4 年 21 名

教科・単元等 総合的な学習の時間



単元の目標

- ・カザフスタンという国を通して遠くの国を身近に感じる。
- ・他の国の文化を学び、日本との違いを感じる。
- ・留学生の話で疑問に思ったことを積極的に質問し、コミュニケーションを図る。

指導の計画

	学習活動	備考・留意点
事前学習	授業実施の告知。	
本時	<ul style="list-style-type: none">・東京国際交流館へ入居するカザフスタン出身の留学生による自国文化の紹介。・話を聞いて、積極的に留学生に質問をする。	プロジェクタ、スクリーンの準備。 イスや机のない多目的室を活用。
事後学習	<ul style="list-style-type: none">・授業で学んだことを活かし世界の国々に関心を持つ。	

授業の構成(90分)

導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none">・講師自己紹介・カザフスタンの国のイメージを児童にたずね、その後、国紹介のイメージ映像を視聴。
展開 (70分)	<ul style="list-style-type: none">・カザフ語で「こんにちは」などの挨拶を言う。・カザフスタンの地図、国旗から国の概要を紹介。・教育制度について解説。日本の学校との比較。質疑応答。・伝統料理、家族との過ごし方、羊の頭を贈る「おもてなし」、民族衣装などを解説。・有名なスポーツとして、ウィンタースポーツ、ボクシングを紹介。同国で1月から2月にかけて開催された第28回ユニバーシアード冬季競技大会の紹介。
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none">・質疑応答・集合写真撮影

担当教員のコメント(目標の振り返りを含む)

児童は最初、緊張しており、カザフスタンという国についても知識がなかった。講師が日本からカザフスタンまでが示された地図を用いたので、「モンゴルに近い」などと距離感がつかめたようだ。児童が特に関心を示したのは、11年制の学校制度、冬はマイナス50度になる気候、食文化など。「宿題はたくさん出ますか」「どうやって家の中を暖めていますか」など、積極的に質問するきっかけとなった。オリンピック・パラリンピックと関連付けてカザフスタンで有名なスポーツなどを質問することができ、外国を身近に感じることができた。

実施団体・講師のコメント

とても熱心に聞いてくれてうれしかった。子どもたちはいろいろなことに興味を持っているようで積極的に質問してくれた。カザフスタンはあまり日本では知られていないが、授業を機会に多くの人に知ってほしい。

当該校におけるこの他のオリンピック・パラリンピック教育の取組

大田区体力向上モデル校としてマラソンや縄跳びなどを推奨、体力向上、スポーツへの興味関心を高めている。12月には山梨学院大学ラグビー部を招き「オリンピック・パラリンピック集会」を開催。監督、コーチ、トレーナー、選手19名と共にラグビー体験をした。さらにトレーナーの話を聞きスポーツへの多様な関わり方を学んだり、留学生選手との交流も図ったりした。

「世界ともだちプロジェクト」として、フランス、モナコ、ハイチ、モーリタニア、レバノンの5カ国について調べ学習をしている。